

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/> )

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html> )

マイライブラリー:0253

(注)本稿は2012年12月10日から2013年1月4日まで4回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2013.1.8

前田 高行

## MENA(中東・北アフリカ)22カ国の経済自由度(2012年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その7)

| 目次  | 頁 |
|---|---|
| 1. 「The 2012 Index of Economic Freedom」について | 2 |
| 2. MENAトップのバハレーン是世界12位で日本よりも高い評価            | 2 |
| 3. 分野(Pillar)別の順位                           | 2 |
| 4. サウジアラビア、トルコ、エジプト、UAE4カ国と日米の比較(レーダーチャート)  | 5 |

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の19の国と1機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら19カ国・1機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第7回の MENA ランキングは、米国のヘリテージ財団とウォール・ストリート・ジャーナルが共同で発表した「The 2012 Index of Economic Freedom」について MENA 諸国をとりあげて比較しました。

\* ホームページ: <http://www.heritage.org/index/>

## **1. 「The 2012 Index of Economic Freedom」について**

「Index of Economic Freedom」(以下経済自由度)は、ワシントンに本部がある米国の保守系シンクタンクのヘリテージ財団(Heritage Foundation)が The Wall Street Journal と共同で毎年公表している。2012年レポートでは世界182カ国がランク付けの対象となっている。そのうち MENA はイラク、とパレスチナ自治政府を除く18カ国が評価対象となっている。

Index は Pillar と呼ばれる以下の10の分野について各国の自由度に応じた点数評価とランク付けがされ、またそれらを総合したランク付けが行われている。

10の Pillar(分野)

- (1) Property Rights
- (2) Freedom from Corruption
- (3) Fiscal Freedom
- (4) Government Spending
- (5) Business Freedom
- (6) Labor Freedom
- (7) Monetary Freedom
- (8) Trade Freedom
- (9) Investment Freedom
- (10) Financial Freedom

## **2. MENAトップのバハレーンは世界12位で日本よりも高い評価**

(表[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/7-T01.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/7-T01.pdf)参照)

総合評価でMENA19ヶ国のトップはバハレーンで世界順位12位である。10位の米国より低いが、22位の日本よりはかなり上位である。バハレーンに次ぐのはカタールであるが、世界順位はバハレーンよりかなり離れた25位となっている。3位以下はヨルダン(世界32位)、UAE(同35位)、オマーン(同47位)、イスラエル(同48位)が世界50位以内である。イスラエルに次ぐ MENA7位のクウェイトは少し離れて世界71位であり、トルコ(同73位)、サウジアラビア(同74位)、モロッコ(87位)、レバノン(世界90位)までが全世界182カ国の中の上位グループとなる。

MENA12位以下の国とその世界順位は以下のとおりである。

チュニジア(世界95位)、エジプト(世界100位)、イエメン(世界121位)、シリア(世界139位)、アルジェリア(世界140位)、イラン(世界171位)、リビア(世界176位)であり、特にイランとリビアの経済自由度は世界最低のレベルと評価されている。因みに MENA19カ国の平均世界順位は85位でありほぼ中間レベルにある。

## **3. 分野(Pillar)別の順位**

(表[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/7-T02.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/7-T02.pdf) 参照)

経済の自由度を構成する10のPillar(上記1参照)について、MENA 諸国の概要を見ると以下の通りである。

(1) Property Rights(MENA 平均ポイント:41.7)

Property Right(工業所有権保護)が MENA で最も高いのはイスラエルとカタールでそのポイントは70.0である。両国についてポイントが高いのは UAE、バハレーン、ヨルダンがポイント55.0で並んでいる。そしてクウェイト、オマーン及びトルコがポイント50.0で並んでいる。一方エジプトのポイントは35.0で MENA 平均を下回っており、イラン及びリビアはポイント10.0と極めて低い。この分野は総合順位(前項参照)との相関性が高い。

(参考:日本80.0、米国85.0、中国20.0、インド50.0)

(2) Freedom from Corruption(MENA 平均ポイント:41.1)

汚職の少なさ、透明度はカタールがポイント77.0でMENAトップである。このポイントは日本(78.0)と遜色が無く米国(71.0)よりも高い。カタールに次ぐのは UAE63.0、イスラエル61.0であり、オマーン(53.0)、バハレーン(49.0)、サウジアラビア、ヨルダン(共に47.0)、クウェイト(45.0)と続いている。

一方 MENA の中で汚職の度合いが高いとされているのはイラン、リビア、イエメンの3カ国でポイントは22.0である。またシリア及びレバノンの両国(25.0)がこれに次いで低い。MENA 諸国の中では GCC 或いはヨルダンのような君主制国家の汚職度が低い一方、イラン、シリアなど共和体制であっても強権的な独裁国家の汚職度が高い。

(参考:日本78.0、米国71.0、中国35.0、インド33.0)

(3) Fiscal Freedom(MENA 平均ポイント:87.2)

MENA はこの分野では世界のトップレベルの国が多い。特に GCC の6カ国は UAE、クウェイト、バハレーンは99.9であり、カタール99.7、サウジアラビア99.6、オマーン98.4に見られる通りほぼ満点に近いポイントであり、総合世界1位である香港のこの分野のポイント(93.1)を上回っている。また MENA で二番目に低いモロッコのポイント69.7は米国(69.8)と同等で日本(67.1)よりも高い。因みに MENA で最もポイントが低い国はイスラエルの64.1である。MENA18カ国の平均ポイントは87.2であり MENA は非常に高いレベルにある。

(参考:日本67.1、米国69.8、中国70.4、インド76.1)

(4) Government Spending(MENA 平均ポイント:60.7)

この分野の MENA トップは UAE(ポイント:80.1)であり、これに続くのがシリア(同78.5)、イラン(同76.9)、モロッコ(同74.8)、カタール(同73.6)、バハレーン(同72.2)、チュニジア(同71.5)である。シリアは総合評価で世界139位であり、分野別でも殆ど100位以下で MENA の最下位クラスにとどまっているが、この分野だけは評価が高い。一方リビア(17.9)、サウジアラビア(37.3)、イスラエル(41.0)などはポイントが低い。

(参考:日本47.0、米国46.7、中国84.1、インド74.8)

(5) Business Freedom(MENA 平均ポイント:66. 3)

この分野ではサウジアラビアがポイント87. 5でMENAでは最も高い。その他チュニジア(82. 9)、モロッコ(77. 2)、バハレーン(76. 5)などが高い。最下位から2番目のレバノンのポイントも53. 9でMENA平均は66. 3と、中国(46. 4)、インド(35. 5)を上回っているが、MENA最下位のリビアはポイント20. 0であり、MENA18カ国の中では際立って評価が低い。

(参考:日本81. 8、米国91. 1、中国46. 4、インド35. 5)

(6)Labor Freedom(MENA 平均ポイント:60. 4)

労働の自由度がMENAで最も高いのはバハレーンで同国のポイントは91. 1であるが、これは米国(95. 8)と遜色が無く日本(81. 4)よりも高い。バハレーンに次ぐのはオマーン(85. 1)であり、UAE(78. 8)、ヨルダン(75. 7)、チュニジア(74. 1)、サウジアラビア(71. 1)がポイント70台に並んでいる。一方、ポイントが低いのはリビア(20. 0)、モロッコ(27. 6)であるが、この2カ国のすぐ上のトルコの40. 0に比べポイントの低さが際立っている。

(参考:日本81. 4、米国95. 8、中国55. 4、インド74. 2)

(7)Monetary Freedom(MENA 平均ポイント:73. 1)

MENA18カ国の中で金融の自由度が最も高いのはヨルダン(ポイント81. 2)であり、これに次ぐのがUAE(同80. 9)、イスラエル(79. 0)、モロッコ(77. 9)、カタール(77. 1)である。この項目はMENA諸国の格差は少なくポイントが最も低いイランで62. 0であり、エジプト(62. 3)サウジアラビア(64. 9)となっている。

(参考:日本88. 9、米国77. 2、中国74. 2、インド62. 9)

(8)Trade Freedom(MENA 平均ポイント:77. 2)

貿易の自由度がMENAで最も高いのはトルコの85. 4ポイントであり、これは米国(86. 4)とほぼ同じであり日本(81. 8)よりも高い。トルコに次ぐのがリビア(85. 0)、オマーン(83. 7)、イスラエル(83. 6)の各国である。GCC産油国のうちUAE、カタール、サウジアラビアのポイントは各々82. 6、82. 5、82. 3とほぼ同じであるが、クウェイトは81. 6で3カ国よりやや低位である。一方ポイントがMENAで低いのはイラン(45. 7)、チュニジア(58. 1)であるが、両国以外の国は全て70ポイントを上回り、MENA18カ国の平均も77. 2である。これは中国(71. 6)、インド(64. 1)を大きく上回っている。MENAは貿易自由度が高い地域であると言える。

(参考:日本81. 8、米国86. 4、中国71. 6、インド64. 1)

(9)Investment Freedom(MENA 平均ポイント:46. 9)

MENA18カ国のうち投資の自由度が最も高い国はイスラエル(80. 0)である。同国に次ぐのがバハレーン(75. 0)、トルコ・ヨルダン(各70. 0)、エジプト・モロッコ(各65. 0)、レバノン(60. 0)であり、他の項目に比べてポイントの格差が大きい。これらの国に比べ投資の自由度が低いとされているのはイラン、リビア、シリア、アルジェリア等の国々であり、いずれもポイントは20. 0以下である。特にイランのポイントは0. 0であり、国際的な経済制裁と硬直的な外資政策のためと考えられる。なお外国企業が多数進出しているドバイを有するUAEのポイントは35. 0でありインドと同じポイン

トである。また製造業合併事業の誘致に力を入れているサウジアラビア(40. 0)も MENA18カ国中の12位であり、決して高いとは言えない。

(参考:日本60. 0、米国70. 0、中国25. 0、インド35. 0)

(10) Financial Freedom(MENA 平均ポイント:46. 1)

金融の自由度が MENA で最も高いのはバハレーン(80. 0)であり、同国のポイントは米国(70. 0)を上回っている。バハレーンに次ぐ MENA2位はイスラエル(70. 0)であり、ヨルダン、レバノン、モロッコ、オマーン、トルコの5カ国がポイント60. 0で並んでいる。さらにクウェイト、カタール、サウジアラビア、UAE の湾岸産油国が共に50. 0であり、このポイント数は日本とおなじである。一方、金融の自由度が低いと評価されているのは、イラン(10. 0)、リビア・シリア(各20. 0)の各国である。

(参考:日本50. 0、米国70. 0、中国30. 0、インド40. 0)

#### 4. サウジアラビア、トルコ、エジプト、UAE4カ国と日米の比較(レーダーチャート)

(図[http://members3.jcom.home.ne.jp/areha\\_kazuya/7-G01.pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/7-G01.pdf) 参照)

UAE(世界総合35位)、トルコ(同73位)、サウジアラビア(同74位)及びエジプト(同100位)と日本(同22位)、米国(同10位)の6カ国について分野別のポイントをレーダーチャートとして比較すると以下のものであった。レーダーチャートは最も外側がポイント100(満点)であり内側中心のポイントは0. 0である。そして最上段の Overall が総合ポイントであり、Pillar 1からPillar 10までは第1項に述べた分野を示している。グラフの実線は外側に広がるほどポイントが高いことを、また真円に近いほど分野のバランスが取れていることを示している。

6カ国を全体的に比べると米国は円形が大きな広がりを見せている。これは多くの項目においてポイントが高いことを示している。同国はPillar 1(工業所有権保護)、Pillar 5(ビジネスの自由度)、Pillar 6(労働の自由度)、及びPillar 8(貿易の自由度)の4項目でポイントが80を超えている。同国の場合Pillar 4(政府支出)のポイントは低い(47. 0)、これは米国が伝統的に「小さな政府」を標榜しているためである。

日本は総合では世界22位であり、Pillar 1(工業所有権保護)、Pillar 5(ビジネスの自由度)、Pillar 6(労働の自由度)、Pillar 7(通貨の自由度)及びPillar 8(貿易の自由度)の5項目でポイントが80を超えている。その他Pillar 2(汚職の少なさ)のポイントも比較した6カ国の中では最も高い。その一方Pillar 4(政府支出)のポイントが低いのは米国と同じ傾向を示しており、Pillar 10(金融の自由度)はMENA 諸国と同程度にとどまっている。

UAE はサウジアラビア、トルコ、エジプトに比べ外縁への広がりがあり MENA 諸国の中では経済全般の自由度が高いことが解る。特にPillar 3(物流の自由度)はほぼ満点に近い高い評価を示している。またPillar 4(政府支出)、Pillar 6(労働の自由度)、Pillar 7(通貨の自由度)及びPillar 8(貿易の自由度)のポイントが高い。Pillar 4(政府支出)については比較した6カ国の中では抜きん出て高いポイント(80. 1)を得ている。その一方でPillar 1(工業所有権保護)、Pillar 9(投資の自由度)及びPillar

10 (金融の自由度)のポイントが低い。工業所有権保護については UAE に限らずサウジアラビア、エジプトなども低い。投資の自由度 (Pillar 9) は比較した6カ国の中で最も低い。UAE 首長国のひとつであるドバイは自由貿易体制が MENA で最も進んでおり外国企業が多数進出しているにもかかわらず UAE 全体としては投資の自由度の評価は低い。

エジプトは総合世界100位であり、UAE、サウジアラビア及びトルコに比べて殆どの項目のポイントが低く評価は最も厳しい。例えば Pillar 2(汚職の少なさ)のポイントは31. 0にとどまり日本(78. 0)、米国(71. 0)を大幅に下回り、トルコ(44. 0)に比べても見劣りがする。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行      〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; [maeda1@jcom.home.ne.jp](mailto:maeda1@jcom.home.ne.jp)